

HPVワクチン接種がまだお済みでない人へ

HPVワクチン接種のお知らせ

～あなたの大切な子宮と命を守るために～

1997年4月2日生～2009年4月1日生まれの人
公費による無料接種は**2025年3月31日**まで



HPVワクチン1回目は

2024年9月までに接種開始を

※合計3回接種が必要で、
標準的なスケジュールでは約6か月かかります。

9万円程度かかるワクチンが
無料で接種できます

-接種費用-

無料

-ワクチンの種類と接種回数-

種類 ※この中から1種類を選びます	9価ワクチン (シルガード9)	4価ワクチン (ガーダシル)	2価ワクチン (サーバリックス)
接種回数	一定の間隔をあけて、同じワクチンを合計3回接種		



-接種方法-

市のホームページ掲載の医療機関に直接予約して受けてください。

※接種には予診票が必要です。

予診票は、市内の実施医療機関および唐津市保健センターにあります。

唐津市保健センターへ取りに来られる場合は、母子健康手帳をご持参ください。

『予防できる子宮頸がん-検診とワクチンの意義-』
(市民公開講座)がぴーぷるにて放映があります。
ぜひご視聴ください。 ※2024年3月さんて実施分



ぴーぷるの放映は終了しました。

接種スケジュールなどHPVワクチンについて詳しくはこちら



唐津市HP

HPVワクチンは、

子宮頸がんの約50～90%※を予防できます

※ワクチンの種類によって異なります

「子宮頸がん」の原因の90%は、ヒトパピローマウイルス(HPV)によっておこります

- HPVは、多くの女性が“**一生に一度は感染する**”と言われるウイルスです。感染しても、ほとんどの人ではウイルスが自然に消えますが、一部の人でがんになってしまうことがあります。
- 子宮頸がんは、近年、**若い女性で罹患率、死亡率が上昇**しており、若年化が進んでいます。



子宮頸がんは、ワクチンと検診でほぼ予防できる病気

- ① HPVワクチン ⇒ HPVの感染を予防します
- ② 子宮頸がん検診(20歳以上対象) ⇒ がんを早期発見し早期治療へつなげます

ワクチン接種後に起こりうる症状

HPVワクチンは、他のワクチンと比べて特別に重い副反応を起こしやすいわけではなく、厚生労働省やWHOも安全性を確認しています。また、接種が原因と証明されていなくても、接種後に起こった健康状態の異常について報告された場合は、ワクチン専門家の会議において一定期間ごとに、報告された症状をもとに、ワクチンの安全性を継続して確認しています。

発生頻度	9価ワクチン	4価ワクチン	2価ワクチン
50%以上	疼痛*	疼痛*	疼痛*、発赤*、腫脹*、疲労
10～50%未満	腫脹*、紅斑*、頭痛	紅斑*、腫脹*	掻痒(かゆみ)、腹痛、筋痛、関節痛、頭痛など
1～10%未満	浮動性めまい、悪心、下痢、そう痒感*、発熱、疲労、内出血*など	頭痛、そう痒感*、発熱	じんましん、めまい、発熱など
1%未満	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、倦怠感、硬結*など	下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、硬結*、出血*、不快感*、倦怠感など	知覚異常*、感覚鈍麻、全身の脱力
頻度不明	感覚鈍麻、失神、四肢痛など	失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、疲労など	四肢痛、失神、リンパ節症など

サーバリックス添付文書(第14版)、ガーダシル添付文書(第3版)、シルガード9添付文書(第1版)より改編

*接種した部位の症状

<お問い合わせ>

唐津市保健センター(唐津市健康サポートセンター「さんて」内)

所在地:唐津市ニタ子1-5-1 TEL:75-5161